

## SR-S328TR1 V14.02 変更内容一覧

### □機能追加

| No. | 項目              | 内容  |
|-----|-----------------|---|
| 1   | LACP機能改善        | LACPDUフレームの受信有効期間にshort timeoutを選択可能としました。  |
| 2   | オートネゴシエーション機能改善 | オートネゴシエーションを実施する際にネゴシエーションする通信速度を選択可能としました。 |
| 3   | 未学習パケットの抑止機能    | 未学習のユニキャストフレームの転送を抑止する機能を追加しました。            |

### □修正内容

| No. | 影響範囲          | 内容  |
|-----|---------------|---|
| 1   | V13.08～V14.01 | MAC学習エントリがエージアウトされない場合がある。  |
| 2   | V13.08～V14.01 | Pauseフレームを受信すると誤ってifInDiscardsおよびdot1dTpPortInDiscards MIB値が加算される。                            |
| 3   | V13.08～V14.01 | Webブラウザにて本装置へアクセスまたはWeb認証実行した際に、画面が表示されない場合がある。   |
| 4   | V14.00～V14.01 | MLAG状態がACTIVEからINDIVIDUALに遷移した場合に、MLAGインタフェースを経由する通信ができない場合がある。                               |
| 5   | V14.00～V14.01 | 動的定義反映で追加したMLAGグループ(LACPモード)運用中にピアリンクポートがリンクダウンすると、MLAG ID=1側装置のLACPも再ネゴシエーションが実施され通信が一旦停止する。 |
| 6   | V14.00～V14.01 | 動的定義反映にてMLAGインタフェースのポート構成を変更した場合に、LACP接続ができない場合がある。   |
| 7   | V14.00～V14.01 | MLAG機能使用時に本装置へのマルチキャストパケットの通信が不通となり、IPv6ホスト動作やループ検出機能が正常に動作しない場合がある。                          |
| 8   | V14.00～V14.01 | FTPにてファームウェアの退避を実施した際に、CPU処理が必要な全ての機能が遅延を伴い、Ping応答遅延やLACP等の接続状態が切断される場合がある。                   |
| 9   | V13.08～V14.01 | Webブラウザから動的定義変更を実施した場合にLACPネゴシエーションが一旦切断される場合がある。   |